

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	萩原 英輝	学校名	埼玉県 私立 開智所沢小 学校
担当教科等	全科	対象学年（人数）	6 年 2 組（ 31 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2025 年 4 月 ～ 3 月（ 35 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 探究		
2. 単元名と単元目標 単元名：行動で世界を変えるぼく・わたしの論文～SDGsに目を向け、考え、動き、伝える～ 単元目標：SDGsの目標に向け世界の諸問題の現状を知り、自分たちにできることを共に考えて行動し、1年間の学習の成果をまとめ、エキシビションで発表することができる。 関連する学習指導要領上の目標：・総合的な学習の時間 (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。		
3. 単元の評価 規準	①知識・技能	世界規模の問題について調べたり話を聞いたりすることを通して、それらの問題の原因や背景について理解している。
	②思考・判断・表現	世界規模の問題が起こっている原因や背景を理解し、それらの事実を相互に関連付けながら、自分達にもできる有効なアクションを考えることができる。
	③主体的に学習に取り組む態度	世界規模の問題について知り、自分たちが考えたアクションプランを進んで社会の一員としてできることを実行しようとしている。
4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 本校は IB 教育と日本の学習指導要領を融合したカリキュラムを組んでおり、各学年年間探究のテーマを定めている。6 年生が SDGs を年間探究テーマにした理由としては、IB が大切に考えている「Action」や「Agency」を発揮しやすいこと、昨年度学習したイノベーションや科学技術といった探究テーマで学んだ知識を関連付けて考えやすいことから設定した。 【単元の意義】 SDGs は規模の大きな問題であるが、自分たち、特にこれからの時代を生きる子どもたちにとっては重大な問題である。そしてこの問題は誰か一人の力で解決できるものではなく、地球上の全員が同じ方向を向いて自分にできることを考えていくことが大切である。 開智所沢のミッションとして「世界の人々や文化を理解、尊敬し、平和で豊かな社会を創るために貢献できるリーダー・スペシャリストの育成」という言葉を掲げている。	

将来国際社会に出てリーダーとして活躍することを目指している子たちにとって、小学校期から貢献していこうとする姿勢を身に付けたり、自分にもできることを考えたりすることはとても貴重な体験となると考える。

【児童／生徒観】

私立小学校の 6 年生。本校は開校してまだ 2 年目で、6 年生は全員が昨年度に編入してきている。中等教育学校も同時に開校しており、現在の最高学年は中学 2 年生。6 年生は小学校では実質 1 期生で、初代卒業生になろうとしている学年である。学年は 2 クラス、62 名。中学受験に向けて準備をしてきた子がほとんどで、子どもたちの学習に対するポテンシャルやモチベーションは非常に高い。どんな教科の課題に対しても興味をもち、すすんで学習をしたり、班で話し合ったりして活動することができる子がほとんどである。また、クラス替えはあったが 2 クラスしかないので、少人数で和気あいあいと過ごしている。学習に対して高い目標を掲げて取り組んでいる子もおり、毎日のように自主学習に取り組んで提出する子もいる。そうでない子たちも基本的な読み書き計算等の基礎的な学習は学年以上のものを持っている子がほとんどである。多くの子が自分の考えをしっかりともち、それを言葉で表現することができるので、楽しんで授業することができる。

【指導観】

SDGs は教科書にも頻繁に出ており、普段からニュースなどでも見聞きするため、ほとんどの児童がその概念自体は知っている。一方でどこか他人事のようなところがあったり、あまりにもスケールの大きな話なので身近に感じられていなかったりするところがある。本校は「個人探究発表会」「エキシビション」などの探究発表の行事もあり、普段からアウトプットする機会は非常に多く、子どもたちも慣れている。昨年度は「開智所沢新聞」を探究の学習で作成し、学校説明会や保護者会などで販売をして完売をした。このような好奇心旺盛で行動力の高い子どもたちなので、今回の学習でも Agency を発揮して自分たちの Action を起こしてくれると期待している。

5. 単元計画（全 35 時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1-3	The world now and in the future	SDGs について知り、関心をもつことができる。	UNICEF の動画等の資料から SDGs について知り、自分が深掘りしたいテーマを絞る。	UNICEF ホームページ ロイロノート
4-6		17 のテーマの中から自分が興味関心のあ る問題を見つけることができる。	自分が深掘りしたいテーマについて調べて分かったことをまとめ、問題が生まれている背景を考え、アクションに対する仮説を立てる。	UNICEF ホームページ ロイロノート
7・8		夏休みに調べた書籍を要約文にまとめ、発表することができる。	個人探究発表会にて、自分が調べたテーマについて調べたことを発表する。	Google ドキュメント 各自が読んだ本
9・10	Thinking about world SDGs	SDGs 問題について改めて考え、問題解決の意欲を高める。	SDGs がなぜ必要なのか、問題の背景にあることを、調べてきたことを通して改めて考え表現する。	Google ドキュメント ロイロノート

11		フェアトレード、エシカル消費について知り、理解することができる。	フェアトレード認証という概念について知る。	Canva プレゼンテーション
12		バングラデシュの写真から、日本とは異なる国の問題について考えることができる。	バングラデシュのSDGsの達成状況についてフォトランゲージを通して考える。	Canva プレゼンテーション
13		エクマットラの活動について知り、フェアな社会をつくるために大切なことを考えることができる。	エクマットラの活動について知り、「公正」の概念や実現のために必要なことを考える。	Canva プレゼンテーション
14・15		世界各国の方のSDGsについての話を聞き、日本とは異なる国の問題について考えることができる。	JICA 短期留学生との交流会	Google ドキュメント
16	Let's Action	今まで学習した知識を関連付け、自分たちができるアクションプランを考えることができる。	今まで学習したり調べたことをもとに、アクションプランを考える。	アクションの例の本 ロイロノート
17 本時		個人で考えたアクションプランをグループで持ち寄り、個人で行うこと、複数で行うことを整理することができる。	個人で考えたアクションプランをもとに、グループごとにアクションプランの計画を立てる。	アクションの例の本 ロイロノート
18		各自が考えたアクションプランをもとに、グループとしての方向性を決めることができる。	グループごとに立てたアクションプランを他のグループに発表し、改善する。	アクションの例の本 ロイロノート
19-21		アクションプランを実行するために必要なことを整理し、実施の準備を整えることができる。	アクションプランの準備をし、実践する。	

22-30	Field work	企業が行う第四次産業の取組について見学し、分かったことをまとめることを通して。	フィールドワークで企業や行政が第四次産業で SDGs へ向けて取り組んでいることを調査する。	ワークシート
31-33	Summary and presentation	1 年間の取組を項目ごとに整理し、論文形式でまとめることができる。	今までの取組を個人で論文にまとめる。	Google ドキュメント
34・35		まとめた論文をもとに、聞いている人にわかりやすいように発表することができる。	エキシビションで 1 年間の取組を発表する。	Google ドキュメント

6. 本時の展開（17 時間目）

本時のねらい：各自が考えたアクションプランをもとに、グループとしての方向性を決める。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入 (3分)	1 前時までを振り返る。	・児童が常に学習したことを振り返れるように、学びの軌跡を掲示する。
展開 (20分)	考えたアクションプランについて話し合い、グループとしての方向性を決定しよう。	
まとめ (20分)	2 各自が考えたアクションプランをもとに、グループで話し合う。	うことを分けて考える。 ・グループで行うことを最優先に話し合い、座標チャートを用いて考える。 ・グループで行うことはなくてもよいが、その場合は個人や家族で行うことを発表し合い、お互いに意見を言うようにさせる。
	3 グループで出た意見について発表する。	

7. 資料（教材）

SDGs アクションに関する書籍
ロイロノート(ワークシート)

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

世界規模の問題が起こっている原因や背景を理解し、それらの事実を相互に関連付けながら、自分達にもできる有効なアクションを考え、グループで話し合うことができる。【ロイロノート】【話し合いの様子】

9. 学校外との連携 ※JICA 以外。なければ不要。

なし

10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど）

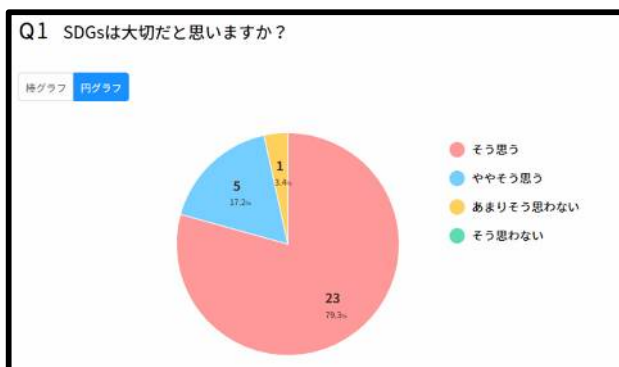
A 児の本時の授業のワークシート↓

**10月16日(木) 探究 行動で世界を変えるべく・わたしの論文
～SDGsに目を向け、考え、動き、伝える～**

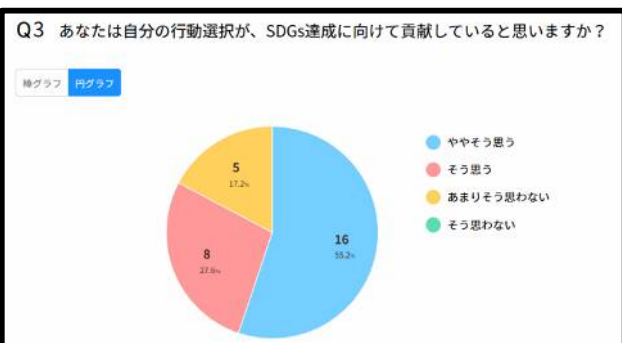
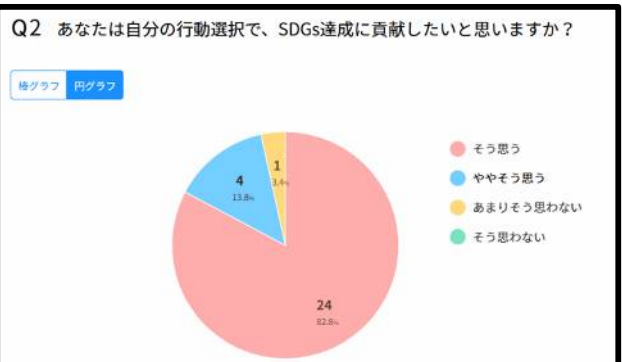
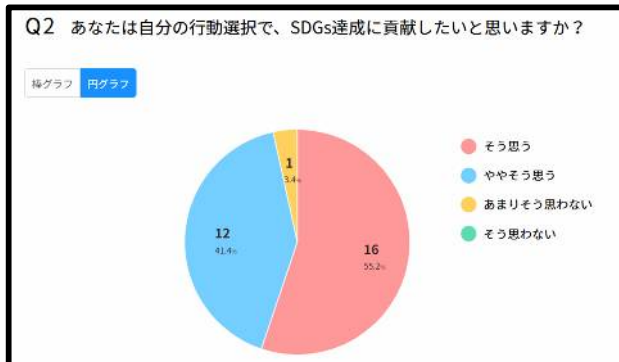
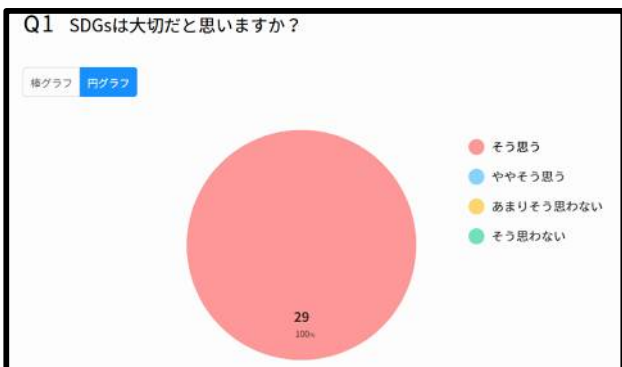
1. なぜ、物乞いをする子供にお金をあげないのか
→大人が物乞いするよりも、子供が物乞いをした方が恵みを受けられる確率が上がるという現状があります。しかし、それに則って考えたときにそこでお金や物をあげてしまうと、「やっぱり、子供の方がいいんだ」というふうに大人がどんどん子供を物乞いのために働かすという新たな課題が生まれてしまいます。これは「児童労働」にもつながる大きな問題のもとになってしまいます。それを止めるためにも、子供に物乞いの恵みをあげないことが子供の輝ける未来のためにもなるのから渡辺さんは物乞いを求める子供に恵みをあげないのではないかなと思います。
→物乞いで稼げると子供が思ってしまうと、少しは生きられるけど教育・健康が整った生活での安定した収入を得られる仕事に将来就けなくなってしまう、環境がへとつながってしまうからだと思います。

2 今日授業で感じたことを書きましょう。
フェアな社会をつくるためには、相手を尊重して思うことが大切だと思います。「ストリートチルドレンだから」、「ホームレスだから」という理由で見る目を変えたり偏見がおこってしまうと、バングラデシュのような教育・福祉をまともに受けられないような環境がさらに生まれてしまうのだと思います。そんな社会をこれ以上作らないためにもこれ以上状況を悪くしないためにも、SDGsは達成されるべきであり、私たちも何か小さな行動でもいいから動いて、知って、発信していく必要があるのだと思います。SDGsが達成されたら、もっとみんなが輝いていける未来が待っていると思います。
私たちがどれだけ恵まれているのかを改めて痛感しました。私の個人のテーマは「目標4 質の高い教育をみんなに」です。なので、今回の渡辺さんの「エクマツトラ」としての活動のお話にはとても興味を持ちました。最初、路上生活をしている方達に信用されていなかった渡辺さん。それでも次の日も次の日も支援に行っていたそうです。それでも諦めずに信用を得るため、毎日支援に行っていた渡辺さんを知って「こんな人がたくさんいれば、国際協力でもなんでもみんなでのみんなの問題として捉えられるのにな」と思いました。人ごとの遠い国の問題だといって、他人事として考えずに、困っている人の立場に立って考えることが大切なんだなと思いました。解決するために自分には何ができるのか、常に考えることが小さな行動から大きな行動に変わっていくことを渡辺さんの大学を卒業してからいきなりバングラデシュに行ったという体験談をもとに知ることができました。

事前アンケート結果↓



事後アンケート結果↓



【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか	年間探究で SDGs のことを学習している関係で、開発途上国の現状を指導者自身が見て、感じたことや考えたことを子どもたちに伝える形で教材化しようと考えていた。具体的にはフェアトレードやエシカル消費の文脈で、今まで商品を味や値段、デザインといった要素でしか購入するものを選んでいなかった児童にも、他にも考えるべき要素があることを知る授業づくりを考えていた。 実際にバングラデシュを訪問する中で、バングラデシュの縫製工業の様子を見ることができたのは貴重な体験となり、子どもたちにフェアトレードの概念を伝える授業で映像や写真を用いて伝えることができた。 それ以外では、NGO エクマットラの活動がとても印象に残った。貧困や教育の機会均等、平和と公正など SDGs の様々なところに関わってくる問題をレスキューするために、日本人の方が設立した団体が異国の地でこんなにも奮闘されていることを知り、私にも何かできないかという思いが自然とわいてきた。私が教師としてできることは、このエクマットラの活動を教材化し、授業にして子どもたちに伝えること、そして学級通信等で保護者にも伝えていくことだと考えた。
12. 苦労した点	探究の授業は学年で行っていることもあり、現地に行った者(私)と参加していない者(他の教員)との間で温度差が出てしまい、そこをどう埋めていくかということを考えることが難しかった。 また、本時をどの授業で実践するかということが1番の悩みどころであった。本来考えていたのはフェアトレードの授業であったが、児童がアクティブに活動するというよりは座って話を聞いて考えることがメインとなってしまうため、本時を自分たちができるアクションを考えグループで話し合うところに変更した。結果的にバングラデシュ色が薄いところが本時となってしまう、教師海外研修の研究授業としてこれで本当によかったのかは未だに結論が出ない。
13. 改善点	・校内への事前周知及び事後の還元 ・子どもたちのアクションに対するフォロー
14. 成果が出た点	10の「学びの軌跡」にグラフがあるが、子どもたちの「自分たちも何か行動を起こしたい」という意欲が高まったのが大きな成果と考えている。規模の大きなテーマだけに自分1人の取組が果たして本当に意味があるのかと考えてしまうこともあるが、1人の行動が2人、3人とつながっていくことでやがて大きな動きとなっていくこともあることを体験してほしかった。 どの教科の学習にも意欲的に取り組み、学びたい、高めたいという欲求が強い子たちなので、とても熱心に話を聞いたり、自分たちにできることを考えたりすることができた。
15. 自由記述	

参考資料・使用教科書：

バングラデシュを知るための66章【第3版】

エクマットラホームページ